

文化

衆議院選挙投票日まであと1週間。有権者に正確で十分な情報を伝達する状況となつてきているのか、選挙報道が問われている。写真は、討論会を前に握手する与野党8党首＝8日、東京・内幸町の日本記者クラブ



時評

山田健太

<10月>

衆議院選挙投票日まであと1週間、序盤戦を見る限り、今年も「窮屈な」選挙

報道が流れている印象だ。こうした傾向が顕著になつたのは、2013年の参議院選挙からと言われている。その後、14年の衆議院、16年の参議院とむしろその窮屈の度合いは増してきていた。ここではその理由をあらためて確認するとともに、さらにこの状況が、来るべき憲法改正国民投票に与える影響についてみておきたい。

お触書

選挙期間中(公宗・宗から投票前日まで)の表現

窮屈な選挙報道

放送各社に改善命令 政府、放送法の解釈変更

活動は、主としてこの法律によって規定されている。公職選挙法はこの法律に定めるところの選挙運動の制限に関する規定は、日本放送協会又は基幹放送事業者が行なう選挙に関する報道又は討論について放送法の規定に従い放送番組を編集する自由を妨げるものではない。」(141条の3)と定める。新聞等の印刷媒体についても同様の規定がある(148条)。これは、人気投票

をテレビ・ラジオや新聞で流すことにより有権者に対し適宜な候補者情報を行き渡らせることとして、そのうえで政策の違い等の詳細情報や、論評も含め各メディアが自由に報道することで、投票行動に有益で必要十分な情報を社会に流通することが期待されている。まさに日本社会独特の手法によって、選挙期間中の多様な自由な情報流通を保障しているのである。

その肝は、あくまでもメディアが「自由に」さまざまな候補者情報を視聴者に伝達することにある。この伝達路が詰まってしまうと、当然、有権者に必要情報は行き渡らない。その結果、後を触れる「特別に自由な情報発信が認められている者」の情報が占めてしまうような、歪な状況が生まれかねない。では、なぜそうなるか。実は先に挙げた公選法の条文の最後についていふ、但し書きに大きな要因

があるといわれている。「ただし、虚偽の事項を放送し又は事実をゆがめて放送する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。」という一節だ。この「事実をゆがめてははけな」の一言が重くのしかかり、自由な報道が及び腰になっているという構図が出来上がっているのだ。さらに放送媒体の場合はこれに、放送法の規定が二重に被さることになる。「政治的に公平であること」(4

条)項が、放送番組の編集にあたって守るもの定められているからだ。 回法もその前段では、放送の自由を謳っており、しかも4条の制約も放送人の自律に委ねているとの解釈が一般的ではあるものの、放送現場の実態としては、選挙が近づくとこの局でも、一斉に「お触書」が出回り、候補者や政党を扱う場合には1分1秒まで平等に扱うことや、特定の政策を一方的に批判するなどは避けられること

基つき電波を止めることだ。こうした政府の法解釈が、先に挙げた公選法の運用も含め、メディアに大きな影響を与え続けているといつことである。 政党は発信力増 そうした報道現場の閉塞状況の中で、ひときわ目立つのが「政党」の政治活動としての情報発信である。特定候補者の選挙運動にはいけないという制約もあるものの、選挙期間中の表現活動として唯一、事実上のフリーハンドを与えられた政党は、その質量ともに他を凌駕する勢いだ。 こうした法構造は、憲法改正国民投票期間中も同様である。むしろ、政党には無料CMが認められている。さらに政党発信情報が増える仕組みになっている。一方で、放送番組には強い縛りが課されている。こうした状況が、有権者に正確で必要十分な情報伝達するに相応しいのかどうか、もう一度稽査する必要があることを、この間の選挙報道は示唆している。(専修大学教授・言論誌) (第21回日壇)

参加費500円。先着100人。比嘉豊光氏(写真家)が自身の写真集「赤いコート」(1970-1972)の作品解説を行ったあと、比嘉豊光氏(法政大学名誉教授)、伊佐真二氏(中電

少年は常に走り続ける。世間の正しいと人を傷つけること、自分が傷つくこと、正義を保持して鏡も目も見なかつた。もはやそんな美少年は、雨の日も少年は少年が軋んだとき手を差し伸べる。躰いて立ち上がり、見つめたその先の水面に映る自分の少年の知っている。周りの目に映る。ひたむきな立派な。ただ、可哀想な少年は初めて。自分を控えて生散り散りになる。正義を建前に傷。 夕方のあいま、彼は少しづつ進み。みぞと、は身。国立神鷹館。学中。2014。賞。詩部門佳作。 ◆第1

正義の代償

少年は常に走り続ける。世間の正しいと人を傷つけること、自分が傷つくこと、正義を保持して鏡も目も見なかつた。もはやそんな美

少年は、雨の日も少年は少年が軋んだとき手を差し伸べる。躰いて立ち上がり、見つめたその先の水面に映る自分の少年の知っている。周りの目に映る。ひたむきな立派な。ただ、可哀想な

少年は初めて。自分を控えて生散り散りになる。正義を建前に傷。 夕方のあいま、彼は少しづつ進み。みぞと、は身。国立神鷹館。学中。2014。賞。詩部門佳作。 ◆第1

少年は常に走り続ける。世間の正しいと人を傷つけること、自分が傷つくこと、正義を保持して鏡も目も見なかつた。もはやそんな美少年は、雨の日も少年は少年が軋んだとき手を差し伸べる。躰いて立ち上がり、見つめたその先の水面に映る自分の少年の知っている。周りの目に映る。ひたむきな立派な。ただ、可哀想な

ギヤ

◆第28回沖縄選展17体 作家招待展(国立博物館 前掲内の豊民ギャラリー)で

行って初めて聴くしんどうはは内参がわからないので、その意味が知りたい。日本語訳をつけたほうがいい、という意見はよく分かる。しかし、日本語訳は

買い物をする生活の中のこと。に「しま」が存在している。 例えは私たちが戦性をテーマに制作した芝居『やん(豊島武)』は、糸島市

その「しま」とは、理解する」というのは、そのしまが豊島間諜を望む土地であるということや、自然と密着した生活の中で、ずむの行列を見たことがあ

ることも、しまとらぼの語りを聞くこと似ている。一度比嘉さんの読売村楚辺のアトリエで撮影前後に撮影したモノクロの写真を100枚ほど見だすとが

失感。沖縄に生きる私達が羨むのは、風景の一部であること。 演劇集団比嘉屋(豊島)

参加費500円。先着100人。比嘉豊光氏(写真家)が自身の写真集「赤いコート」(1970-1972)の作品解説を行ったあと、比嘉豊光氏(法政大学名誉教授)、伊佐真二氏(中電